

Tsugio Sekiguchi
PARALLELE LEHRGÄNGE
DER
DEUTSCHEN SPRACHE
(Grammatischer Teil)
—Verbesserte Auflage—
Neubearbeitet von Ryôichi Manabe

SANSHUSHA

は し が き

▼本教程は、文法と読本が二人の教師によって分担される場合を考えて、厳密に並行しつつ、しかも進度の伸縮にゆとりを持たせた並行教科書です。なぜかと申しますと、単に厳密に並行せしめただけでは、この文法をやった後には必ずこの読物を読まなければならない、この読物を読んだ後には必ずこの文法をやれ、ということになって、二人でやる授業がそんなうまい具合になるわけありませんし、また、それならいっそ一本にまとめて文法と読物とを順々にならべた方が合理的なわけです。

▼進度のゆとりというのは、「必ず文法の方が一足先に進んで、該当の読物その後からついてゆく」という根本方針を、「ただし、その一足先は、なんなら二足先になろうと三足先になろうと構うまい」というふうに和らげたところにあります。そのためには、まず、文法と読物の授業時間数がほぼ同時間と想定して、文法の方の例題は極力やさしくし、読物の方は（たとえば標準読本に比べて）少しむつかしく、いろいろと問題も出て来るように仕組みました。また、読物の方が、接続法までは行かず、文法の途中でおしまいになっているのも、そうしたところに原因があります。

▼読本篇が、標準読本にくらべて、語学的にも知性的にも、ずっとむつかしくなっているのは、ただいま述べた理由の外に、私自身が標準読本を使ってみた上の経験で、これは少し戦後の学生を甘く見すぎたな、と反省したところから来ています。両者とも、

まず極端な試みと見て頂いて、この次にはこの二つの中間を取ったものを作るつもりでいます。

▼元来の発音の部の次に、別に「発音の要点」という部を設けたのは、その二つともを通過させるという意味ではなく、発音を担当しないことになっている先生の時間が、何かの加減で、一番最初の時間に廻ってきた時のためのものです。

1953年3月10日

関 口 存 男

改訂について

本書は関口存男著「並行ドイツ語教程（文法篇）」の改訂版で、さきの「新急就小ドイツ文法」と同じく、私が関口家の依頼と三修社の委嘱により改訂したものです。「新急就小ドイツ文法」の場合は、できるだけ「関口らしさ」を失わないようにという配慮から、あまり大きな加筆、変更をせずに、旧版より読み易くする点に重点をおき、あまり改訂が目立たないように心掛けました。が、今回は、関口文法方式という土台と骨組はもちろん残しましたが、例題の独文、作文の問題などは全体の60~70%ぐらい、課によっては100%の変更をあえてしました。その他文法説明上の文例も殆んど変更しました。具体的に申しますと、関口先生が好んで用いる、philosophisch といいますか、多少ひねった、考えさす内容のものは全部、できるだけ日常的な、また実生活にも使える anschaulich なものに変えました。箴言、警句的の例題や作文も面白いのですが、文法の理解と記憶という点に重点をおいて、内容的には、わかり易いものを選んだわけです。さらに当然のことですが「近い将来には月へも行けるだろう」といったたぐいの例も、現代に即したものに変えました。要するに、文例、例題、作文問題の変更、これが今回の一番大きな、また広範にわたる改訂です。例題や作文の「量」、これは今の大学の時間数からいえば多すぎるくらいですが、これは教師のほうで適宜に取捨もできますから、減らしてありません。つまり量的な変更はないわけです。

その他改訂を加えた点は、(1)「発音の部」と「発音の要点」を削除し、ここの部分をうんと簡略化したこと。教師がそばについている以上、でてくる単語、短文を教師が正しく指導して発音や読み方を教えていくのが本筋だからです。(2) 名詞単数3格の語尾-eは現代ドイツ語の傾向にしたがって(熟語など習慣的に保持しているものを除き)原則として削除したこと。(3) 定形の位置に関する用語も新傾向の考え方によって、「定形文頭」、「定形第2位」、「定形文末」としたこと。(4) さらにこれは新しい試みですが、格語尾の強語尾、弱語尾のかわりに「示格語尾」、「付加語語尾」としてみたこと。(5) 不規則動詞の変化表は最新の Duden-Grammatik (1973) に

よって改新したこと、などです。ただ原著と同じ建前で踏襲したところは(1) 本書には非人称動詞の課はありませんが、例題中には適宜非人称も使ったこと。(2) 前置詞は、am, im, dafür など冠詞、代名詞との融合形を含め、未習ということを顧慮せずに、早目に例題中に使ったこと。(3) 拳形としての不定句もはじめから作文問題の使用語を指示する場合に使ったこと、などですが、これは教師の簡単な説明で十分理解させ得るという考え方です。しかし、原著では不定関係代名詞を使った文 (Wer lügt, der stiehlt auch. のたぐい) が、第3課から盛に出てきますが、これらは関係代名詞の課までは、使用を差しひかえ、別の文例を当てました。

以上が改訂のあらましですが、全体として旧版よりやさしくなっていれば、改訂の目的は達したわけです。要するに例題など文の意味内容にあまりわずらわされずに、文法規則を覚え易くしたつもりです。しかし「並行ドイツ語教程(読本篇)」との連繫(款)は崩さずに保ってあります。

1975年1月

真鍋良一

目 次

アルファベット

| | |
|-----------------------|----|
| 発音と読み方..... | 1 |
| 文法..... | 5 |
| 第1課 動詞の人称変化(通則)..... | 7 |
| 第2課 定形の位置..... | 10 |
| 第3課 動詞の人称変化(不規則)..... | 12 |
| 第4課 名詞・定冠詞の格変化..... | 15 |
| 第5課 冠詞類と形容詞の格変化..... | 19 |
| 第6課 名詞の複数形..... | 26 |
| 第7課 助 動 詞..... | 30 |
| 第8課 再 帰 動 詞..... | 33 |
| 第9課 分 離 動 詞..... | 36 |
| 第10課 動詞の3要形..... | 39 |
| 第11課 分 詞..... | 44 |
| 第12課 受 動 形..... | 47 |
| 第13課 前 置 詞..... | 49 |
| 第14課 関係代名詞..... | 53 |
| 第15課 完了時称..... | 56 |
| 第16課 zu 不定句..... | 60 |
| 第17課 比較級と最高級..... | 64 |
| 第18課 接続法とは何か..... | 68 |
| 第19課 接続法の語形..... | 69 |
| 第20課 接続法の用法..... | 72 |
| 付録 変 化 表..... | 78 |

Das deutsche Alphabet

| | | | | |
|---|---|----------|----------|--------|
| A | a | <i>A</i> | <i>a</i> | [a:] |
| B | b | <i>B</i> | <i>b</i> | [be:] |
| C | c | <i>C</i> | <i>c</i> | [tse:] |
| D | d | <i>D</i> | <i>d</i> | [de:] |
| E | e | <i>E</i> | <i>e</i> | [e:] |
| F | f | <i>F</i> | <i>f</i> | [ef] |
| G | g | <i>G</i> | <i>g</i> | [ge:] |
| H | h | <i>H</i> | <i>h</i> | [ha:] |
| I | i | <i>I</i> | <i>i</i> | [i:] |
| J | j | <i>J</i> | <i>j</i> | [jɔt] |
| K | k | <i>K</i> | <i>k</i> | [ka:] |
| L | l | <i>L</i> | <i>l</i> | [el] |
| M | m | <i>M</i> | <i>m</i> | [ɛm] |
| N | n | <i>N</i> | <i>n</i> | [ɛn] |
| O | o | <i>O</i> | <i>o</i> | [o:] |
| P | p | <i>P</i> | <i>p</i> | [pe:] |

| | | | | |
|---|---|---|---|-----------|
| Q | q | Q | q | [ku:] |
| R | r | R | r | [ɛr] |
| S | s | S | s | [ɛs] |
| T | t | T | t | [te:] |
| U | u | U | u | [u:] |
| V | v | V | v | [fau] |
| W | w | W | w | [ve:] |
| X | x | X | x | [iks] |
| Y | y | Y | y | [ýpsilon] |
| Z | z | Z | z | [tsɛt] |

| | | | | |
|---|---|---|---|------|
| Ä | ä | Ä | ä | [ɛ:] |
| Ö | ö | Ö | ö | [ø:] |
| Ü | ü | Ü | ü | [y:] |

| | | | | |
|--|---|--|---|-----------|
| | ß | | ß | [ɛs-tsɛt] |
|--|---|--|---|-----------|

—発音と読み方—

1. 発音練習には数詞を唱えること。最初毎時間1から12ぐらいまで、次第に20, 30あたりまで範囲をひろげる。

巻末の数詞表は口で発音し、唱えられるようになってから、(または自宅練習用に) 利用すること。

数詞中にだいたいドイツ語特有の発音ないし英語とちがう読み方のもの (ö, ü, eu, ei, ie や, ch, ig, 長音符のh, s, ß, v, w, z など) がでてくる。その他は文法にでてくる単語, 短文について, 1語1文の口頭練習を厳格に行うこと。

2. 暗記用文例 :

Guten Morgen!

Guten Tag!

Guten Abend!

Mahlzeit!

Gute Nacht!

Auf Wiedersehen!

Mach's gut!

Bis gleich!

Danke!

Vielen Dank!

Bitte schön!

Nichts zu danken!

Gern geschehen!

Wie geht es Ihnen?

Danke, gut. Und Ihnen?

—文 法—

第1課 動詞の人称変化 (通則)

1. 人称代名詞と人称変化 (直接法現在)

| 不定形 | komm-en | | | | |
|-----|---------|-----------------|---------|-----|---------|
| 定形 | | 単数 | | 複数 | |
| | 1人称 | ich | komm-e | wir | komm-en |
| | 2人称(親称) | du | komm-st | ihr | komm-t |
| | 3人称 | er sie es | komm-t | sie | komm-en |

備考：(1) 2人称には親称・敬称の2形がある。敬称には3人称複数の人称代名詞を大書したものをを用いる。Sie kommen. —(2) 語幹によると、-t, -st を直結しては発音しにくいものがある (arbeiten, baden, morden, regnen など)。これらのものには -t, -st の代わりに -et, -est を用いる。—(3) 名詞は3人称として扱われる：Der Frühling kommt. Die Leute kommen.

[例題] 1. „Georg!“ „Ich komme schon!“ 2. Du kommst also nicht? 3. Er kommt bald nach Hause. 4. Ich glaube, sie kommt nicht. 5. Glauben Sie, daß sie bald nach Hause kommen? 6. Wir hoffen, daß ihr bald nach Hause kommt. 7. Regnet es noch? 8. Ja, es regnet noch. 9. Die Liebe überwindet alles. 10. Kinder und Narren reden die Wahrheit.

[作文] 1. ゲーオルクは帰宅する。2. 私は彼女が程なく帰宅す

ることを願う (hoffen) 3. おまえは、かれらが本当のことを言っていると思うか? 4. まもなく雨がふると思う (「われわれ」を主語とせよ)。 5. 彼女は、かれが本当のことを言っていると思っている。

[試問] 人称変化せよ:

| | | | |
|--------------|-----|---------------------|------|
| leben | 生きる | lieben | 愛する |
| lachen | 笑う | weinen | 泣く |
| fragen | 問う | antworten | 答える |
| denken | 考える | hassen ^註 | 憎む |
| verschwinden | 消える | schweigen | 黙する |
| fühlen | 感ずる | hören | 聞く |
| schreiben | 書く | atmen | 呼吸する |

[注] hassen や küssen の2人称定形は3人称と同形になる。

2. 語幹が -er, -el に終わる動詞の人称変化

bedauer-n

handel-n

| | | | |
|-----------------|---------------|----------------|--------------|
| ich bedau[e]r-e | wir bedauer-n | ich hand[e]l-e | wir handel-n |
| du bedauer-st | ihr bedauer-t | du handel-st | ihr handel-t |
| er bedauer-t | sie bedauer-n | er handel-t | sie handel-n |

備考: 不定形と複数定形で -n の語尾を有するのは、この型以外は sein, tun の2語である。

- [例題] 1. Ich bedaure, daß ich zu spät komme.
 2. Wir bedauern, daß er noch nicht kommt. 3. Glaubt ihr, daß sie ehrlich handeln? 4. Es dunkelt schon, wir gehen nach Hause. 5. Ich bummle gern, wenn es

dunkelt. 6. Sie stottert und sagt: „Ich stottottottotre ja nicht!“

[作文] 1. われわれは遅刻したことを残念と思わない。2. 私は、あなたが堂々と行動なさらないことを遺憾に存じます。3. 私は雑談をする (plaudern) のが好きです。4. かれらは、もし雨がふらなければ、好んで散歩する。5. わたしがたまに (ausnahmsweise) 正直に振舞うと、彼女はにたりと笑う (lächeln)。

第2課 定形の位置

3. 定形という概念 (第1課の1参照) —まだ文章をなすに至らない不定形 (**kommen, regnen** など) と区別して, すでに文章をなすに至った形の動詞 (Ich komme の **komme**, Es regnet の **regnet** など) を「定形」という。定形にはかならずその「主語」というものがあり, かつまた主語の人称がその語尾にあらわれる。

備考: 定形, 不定形に対して, 「定動詞」「不定詞」という呼称もある。

定形が文章中に占める位置には, 以下のような3種の場合がある。

4. 定形第2位

- a) Er kommt bald nach Hause.
- b) Es regnet noch.

次のように主語以外の文の要素 (文枝) が文頭にきても定形は第2位を保つ。こういう場合主語は定形のあとにおかれる。

- c) Bald kommt er nach Hause.
- d) Noch regnet es.
- e) Hoffentlich kommt er bald nach Hause.
- f) Heute regnet es noch.
- g) Wann kommt er nach Hause?

5. 定形文頭—ja または nein の答を要求する疑問文。

- a) Regnet es noch?
- b) Kommt er bald nach Hause?

c) Lernen auch Karl und Fritz Englisch?

備考：あなた (Sie), あなたがた (Sie) に対する命令, 要求には, 「不定形+Sie」の形式を用いる。Kommen Sie gleich! Gehen Sie schnell!

6. 定形文末——daß, wenn などの従属接続詞を用いて, 他の文に結びつけられる従属文では定形が文末にくる。

a) $\overbrace{\text{Ich hoffe,}}^{\text{独立文}} \overbrace{\text{daß er bald nach Hause kommt.}}^{\text{従属文}}$

b) $\overbrace{\text{Ich bleibe hier,}}^{\text{独立文}} \overbrace{\text{wenn es noch regnet.}}^{\text{従属文}}$

備考：(1) 疑問詞はすべて従属接続詞として用いることができる。換言すれば疑問文の定形を文末におけば従属文として使える。Sie fragt, wann er nach Hause kommt. (2) 従属文は独立文の1要素にすぎないものであるから, 従属文が文頭におかれると, それにつづく独立文の定形は, 定形第2位の原則通り, 第2位にくる: Wenn es noch regnet, bleibe ich hier. (3) 独立文を「主文」, 従属文を「副文」ともいう。

第3課 動詞の人称変化 (不規則)

7. 不規則変化動詞 (巻末の表を見よ)の中には、単数の2人称・3人称で幹母音を変ずるものがある：

| sprech-en | | | schlaf-en | | |
|-----------|-------------------|---------------|-----------|-------------------|---------------|
| ich | sprech-e | wir sprech-en | ich | schlaf-e | wir schlaf-en |
| *du | sprich -st | ihr sprech-t | *du | schläl -st | ihr schlaf-t |
| *er | sprich -t | sie sprech-en | *er | schläl -t | sie schlaf-en |

— 例 語 —

| | | | | |
|-----------|---------|--------------|--------------|-------------|
| sterb-en | 死ぬ | ich sterb-e | du stirb-st | er stirb-t |
| stehl-en | 盗む | ich stehl-e | du stiehl-st | er stiehl-t |
| ess-en | 食う | ich ess-e | du iß-t | er iß-t |
| seh-en | 見る | ich seh-e | du sieh-st | er sieh-t |
| geb-en | 与える | ich geb-e | du gib-st | er gib-t |
| nehm-en | 取る | ich nehm-e | du nimm-st | er nimm-t |
| fahr-en | (乗物で)行く | ich fahr-e | du fähr-st | er fährt |
| schlag-en | 打つ | ich schlag-e | du schläg-st | er schläg-t |
| laufen* | 走る | ich laufe | du läufst | er läuft |
| stoßen* | 突く | ich stoße | du stößt | er stößt |

- [例題] 1. Man ißt dreimal täglich. 2. Ißt du heute zu Hause? 3. Nein, heute esse ich in der Mensa. 4. Wir fahren nach Hause, wenn es fünf schlägt. 5. Fährst du schon nach Hause, Paul? 6. Er sieht nicht gut. 7. Siehst du, so geht es nicht? 8. Er schläft